World Diabetes Day 委員会事務局
〒102-0083　東京都千代田区麹町 2-2-4
TEL：03-3514-1721　FAX：03-3514-1725
https://www.wddj.jp/

2026 年 11 月 10 日

報道関係各位

11 月 14 日（土）は World Diabetes Day

ダイアベティス（糖尿病）の正しい知識の普及を願い、全国 276 ヶ所でブルーライトアップを実施

World Diabetes Day 実行委員会（一般社団法人日本糖尿病学会・JADEC（公益社団法人日本糖尿病協会）は、国際的なダイアベティス（糖尿病）の疾患啓発の日である 11 月 14 日の「World Diabetes Day（ワールドダイアベティスデイ／以下、WDD)」にちなみ、日本国内の代表的な建造物をシンボルカラーのブルーにライトアップします。また、この日を含む 11 月 9 日（月）～15 日（日）の 1 週間を「第 62 回ダイアベティスウィーク」として、各地で糖尿病（ダイアベティス）の正しい知識を伝える講演会や街頭イベントを行います。

■ブルーライトアップ

2006 年に糖尿病（ダイアベティス）の脅威に関する国連決議（UN Resolution61/225）が採択されると、WDD を周知する目的で、世界各国で著名な建造物をブルーにライトアップするイベントが始まりました。日本でも、2007 年の東京タワーのブルーライトアップを皮切りに、全国に活動が拡がり、2019 年にはほぼすべての都道府県で 11 月 14 日のブルーライトアップと市民向けの啓発イベントが行われました。

本年は、276 ヵ所（11/10 現在）の著名な建造物や糖尿病（ダイアベティス）診療を行う医療機関等が青い光に彩られます。



大阪城天守閣（11/14　18 時~23 時）

■WDD2026・第 62 回ダイアベティスウィークのテーマ

～小さな一歩が未来を変える　肥満対策とダイアベティス予防～

肥満は 2 型糖尿病（ダイアベティス）の重要なリスク要因であり、糖尿病（ダイアベティス）発症予防の観点からも、肥満への早期対応が重要です。

政府が推進する「攻めの予防医療」（疾病発症前からの積極的な介入）を踏まえ、WDD 実行委員会も肥満を 2 型ダイアベティスの発症予防に向けた重要な課題と位置づけ、肥満解消に向けた啓発活動を積極的に展開します。

今年のテーマには、日頃の行動の積み重ねが将来の健康につながること、そして、肥満やダイアベティスに対する正しい理解を広げ、一人ひとりの健康づくりを社会全体で支えていきたいという思いを込めています。

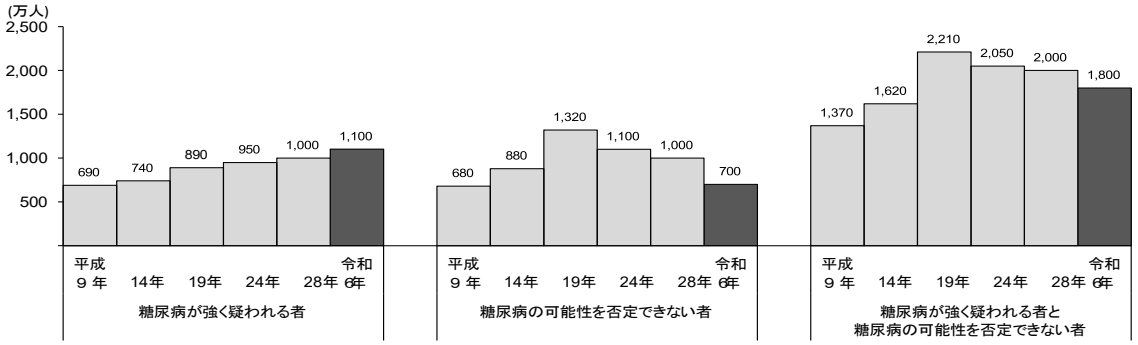


WDD2026 公式ポスター

■日本の糖尿病（ダイアベティス）の概況

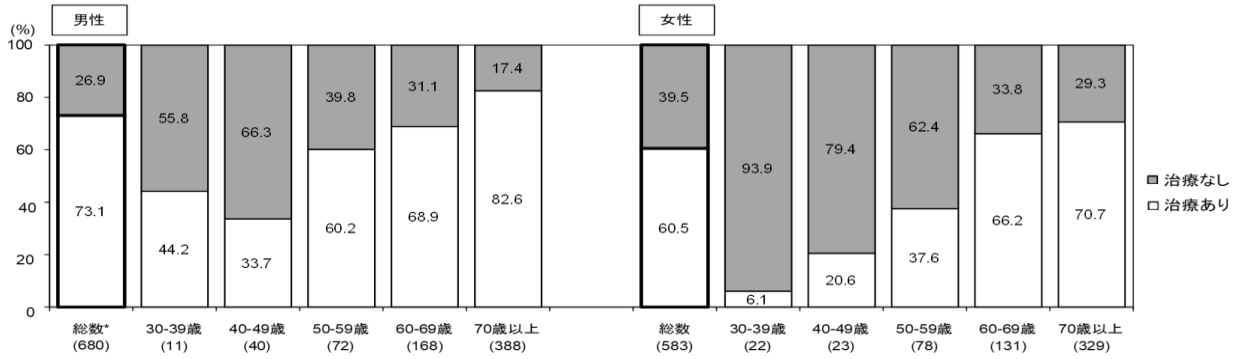
2024 年（令和 6 年）国民健康・栄養調査（厚生労働省）によると、「糖尿病（ダイアベティス）が強く疑われる人」は約 1,100 万人、「糖尿病の可能性を否定できない人（予備群）」は約 700 万人と推計されています（図 1）。また、糖尿病を指摘された人のうち、治療を受けている人は 67.4%であり、年齢階級別にみると 30～40 歳代の未治療者の割合が高くなっています（図 2）。

図１ 「糖尿病が強く疑われる者」、「糖尿病の可能性を否定できない者」の推計人数の年次推移（20 歳以上、男女計）（平成９（1997）年、14（2002）年、19（2007）年、24（2012）年28（2016）年、令和6（2024）年）



※「糖尿病が強く疑われる者」の判定
ヘモグロビン A1c の測定値があり、国民健康栄養調査の身体状況調査票の問診において「これまでに医療機関や検診で糖尿病といわれたことの有無」「現在、糖尿病治療の有無」及び「現在の状況」が有効回答である者のうち、ヘモグロビン A1c（NGSP 値）が 6.5%以上または「糖尿病治療の有無」に「有」と回答した者

図２ 「糖尿病を指摘されたことがある者」における治療の状況（20 歳以上、性・年齢階級別、全国補正値）



出典：令和 6 年（2024 年）国民健康・栄養調査結果の概要（厚生労働省）

■世界の糖尿病（ダイアベティス）の現況

- 2024 年、世界の成人（20-79 歳）糖尿病（ダイアベティス）人口は **5 億 8,900 万人**。9 人に 1 人の割合です。中でも、アジア・太平洋地区は、**2 億 1,540 万人**と世界で最多となっています。
- 糖尿病（ダイアベティス）のある人のうち、推定 **2 億 5,200 万人、10 人中 4 人**は未受診の状態です。
- 2024 年、糖尿病（ダイアベティス）は **340 万人**以上の死亡の原因となっています。これは、世界の全死亡原因の 9.3%に相当し、9 秒に 1 人の割合です。
- 1 型糖尿病（ダイアベティス）のある人の数は推定 **915 万人**で、そのうち 19.8%は 20 歳未満の小児・若年層です。
- 成人の糖尿病（ダイアベティス）人口は、2050 年には **8 億 5,300 万人**に増加すると予測されています。
- 2024 年、世界の糖尿病（ダイアベティス）医療関連支出は **1 兆 USD**、世界の医療費支出の 11.9%を占めています。過去 17 年間で 338%の増加です。

出典：IDF Diabetes Atlas 11th edition 2025（2 年に 1 度発行）

■関連ウェブサイト

World Diabetes Day 実行委員会 https://www.wddj.jp/（ブルーライトアップ／イベント一覧掲載）
JADEC（日本糖尿病協会） https://www.nittokyo.or.jp
日本糖尿病学会 http://www.jds.or.jp/
日本糖尿病対策推進会議 https://www.med.or.jp/doctor/diabetes/
厚生労働省　令和 6 年「国民健康・栄養調査」の結果
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_66279.html
IDF http://www.idf.org/
IDF Diabetes Atlas https://diabetesatlas.org/

★World Diabetes Day（11 月 14 日）の由来

1921 年に糖尿病（ダイアベティス）治療に必要なインスリンを発見したフレデリック・バンティング博士（カナダ／1891-1941）の誕生日。シンボルカラーのブルーは、国連色とどこまでも拡がる青空の色から採用されました。2006 年 12 月 20 日、国連総会において糖尿病（ダイアベティス）の脅威に関する決議が採択され、（UN Resolution 61/225／United Nation）公式な国連デーとなりました。

★ブルーサークルとは

World Diabetes Day のキャンペーンには、青い丸をモチーフにした「ブルーサークル」が用いられます。これは、糖尿病（ダイアベティス）に関する国連決議が採択された翌年 2007 年から使われるシンボルマークです。どこまでも続く空を表す「ブルー」と、団結を表す「輪」をデザインし、”Unite for Diabetes”（糖尿病（ダイアベティス）との闘いのため団結せよ）というキャッチフレーズとともに、世界中で糖尿病（ダイアベティス）抑制に向けたキャンペーンを推進しています。

★World Diabetes Day 実行委員会とは

2006 年の国連決議を受けて、日本国内の糖尿病（ダイアベティス）啓発を促進するために JADEC（日本糖尿病協会）と日本糖尿病学会により設立された任意団体です。World Diabetes Day に関する国内の啓発活動を統括し、各地のブルーライトアップや地域密着型イベントを支援しています。

★IDF とは

International Diabetes Federation (IDF／国際糖尿病連合)は、163 カ国・地域から 264 の糖尿病（ダイアベティス）関連団体が参加する組織で、1950 年から糖尿病（ダイアベティス）のある人を支援する活動を展開しています。2006 年の国連決議採択では、世界保健機関（WHO）とともに主導的な役割を果たしました。日本糖尿病学会・JADEC（日本糖尿病協会）も IDF の正会員です。

****

◇国内ブルーライトアップ、イベントに関するお問い合わせ先◇
JADEC（公益社団法人日本糖尿病協会）　事務局
〒102-0083　東京都千代田区麹町 2-2-4　8F
TEL　：03-3514-1721　E-mail：　office@nittokyo.or.jp